

生物多様性保全に係る武蔵台緑地生態および修景管理業務委託
年間作業報告書

令和6年度



＊『市民協働による生物多様性保全のための武蔵台緑地植生管理ガイドライン』（2020）に基づいた管理をしています。

目次

- ① ササ刈り
- ② 実生木・常緑樹の選択除去・剪定
- ③ 選択除草
- ④ 実生木を活かしたコナラ後継樹育成のための除伐
- ⑤ つる植物侵入防止のための緩衝帯づくり （緑地北側境界の中低木間引き伐採）
- ⑥ 植生調査および巡回
- ⑦ ナラ枯れほか危険木対応
- ⑧ 保全作業やイベント等の市民・各種団体との協働
- ⑨ 情報の提供・共有

① ササ刈り

武蔵台緑地ではササ類の繁茂が激しく、一部では背丈を越すまでに育ち、林内が暗くなってしまっていました。

課題 ①ササ以外の植物が育ちにくいいため種数、個体数が減り、生物多様性が低くなっている。

②うっそうとして見通しが悪い。

対策 令和4年度 鳥類保全ゾーン等を除く緑地内の全域で、ササを地際から刈り取りました。
その結果、林内に陽射しが入るようになり、見通しも改善されました。

令和5年度 ササは再び伸びてきましたが、密度や高さは以前よりも低い状態でした。
「武蔵台緑地 植生管理ガイドライン」（2020年 府中市発行）で示されたエリアごとの目標とする高さの
目安を参考に、ササ刈りを実施しました。

令和6年度 前年度と同様、エリアごとに目標の高さになるようにササ刈りを実施しました。
また、ササ刈り後に伸びた稈が歩道に倒れ込んでくるのを防ぐため通路脇ではより低く刈り込みました。

Aエリア 「ササ類を選択的に刈る」エリア ササ類の侵入・定着を防ぐことを目標とする



作業前

ササ類のほか、実生木やつる植物が伸びてやぶのようになっています



作業後

ササ刈りを実施した結果、地面に光が当たるようになりました。アカマツ種子の発芽に適した環境です

歩道脇のササ刈り



作業前

伸びたササ類などが両脇から歩道に向かって倒れ込んでいます



作業後

ササ類などを低く刈り込むことで、通行時に身体に当たる
ことがなくなり、歩きやすくなりました

② 実生木・常緑樹の選択除去・剪定

武蔵台緑地ではいくつかの森林タイプがみられるため、区域ごとに目標とする姿が「植生管理ガイドライン」によって設定されています。目標とする森林タイプに近づけるため、指標植物を被圧する植物は選択的に除去をしています。

樹林が広場や園路に接する部分は林縁(りんえん)と呼ばれますが、樹林内とは光環境が異なり、生育する植物種も変わってくるため重要です。実生木の繁茂によってやぶのようになってしまった林縁において選択除去を実施しました。



作業前

実生木が繁茂した林縁



作業後

実生木が整理され、地面に光が当たるようになりました



作業前

林縁では、実生木が光を求めて斜めに伸びています



作業後

実生木が整理され、下草が見えるようになりました

常緑樹が増加すると林内が暗くなり、落葉樹の若木や草本が生育しにくくなります。さまざまな種類の植物が生育できる環境をつくるために、昨年度に伐採された常緑樹の切株から伸びたひこばえの除去を行いました。



作業前

前年度に伐採したアオキの切株からひこばえ（萌芽枝）が伸びています



作業後

アオキは成長が早く、すぐに枝を広げて地面に影をつくるため、ひこばえのうちに除去して明るい環境を維持します

*実生木(みしょうぼく)…風や鳥などに運ばれてきた種から芽生え、成長した樹木のこと

③ 選択除草

緑地内には、本来この場所に自生しない外来種や栽培種も多く見受けられます。
街路樹や庭木の実を食べた鳥などによって持ち込まれるほか、私的に植栽されたり投棄された培養土から根付いたり、侵入経路はさまざまです。
これらの植物を除去することにより、緑地本来の姿を取り戻すことを目指しています。

希少植物の周囲では、覆いかぶさるつる植物など生育に悪影響を及ぼす植物を選択的に除去し、希少植物の良好な生育環境の確保に努めています。



栽培種（園芸種）の掘り取り
緑地の進入路や梅園に接する部分では栽培植物の私的植栽や投棄植物の活着が多く見受けられました。

緑地内で見られる外来種（一部）



コネズミガヤ

メリケンカルカヤ

アメリカオニアザミ



アレチヌスビトハギ

右) 武蔵台公園梅園 北側の草地で
繁茂するアレチヌスビトハギ



④ 実生木を活かしたコナラ後継樹育成のための除伐

コナラやクヌギからなる雑木林は、木材を薪などとして利用するために15～20年周期で伐採され、切株から発生した萌芽枝を育てることで若い世代の樹木が生育する林へと更新されてきました。
しかし現在のように薪などが利用されなくなると、このような萌芽更新が行われなくなるため大径木が増えて、次世代を担う若木が少ない状態になっていきます。

令和2年頃からのナラ枯れ被害の拡大により、多くのコナラ・クヌギが枯死し、伐採されました。ナラ枯れ被害木の切株からは萌芽枝（ひこばえ）はほとんど出てこないため、切株による萌芽更新は期待できません。

伐採されたコナラ等が枝を広げていた場所では地面まで光が届くようになり（林冠ギャップ）、ササ類やつる植物、成長の早い落葉樹が増えています。武蔵台緑地で林冠ギャップに多く見られるのはアカメガシワやクサギ、ヌルデ、クマノミズキ、ムクノキなどです。どんぐりから芽生えたコナラ実生木はこれらの樹木の下で、生育している状況でした。

どんぐりから芽吹いたコナラ実生木を育成して若い世代の樹木からなる林をつくるため、コナラ実生木への日照を遮っているササ類、つる植物、コナラ・クヌギ以外の樹木を除伐しました。



作業前



作業後



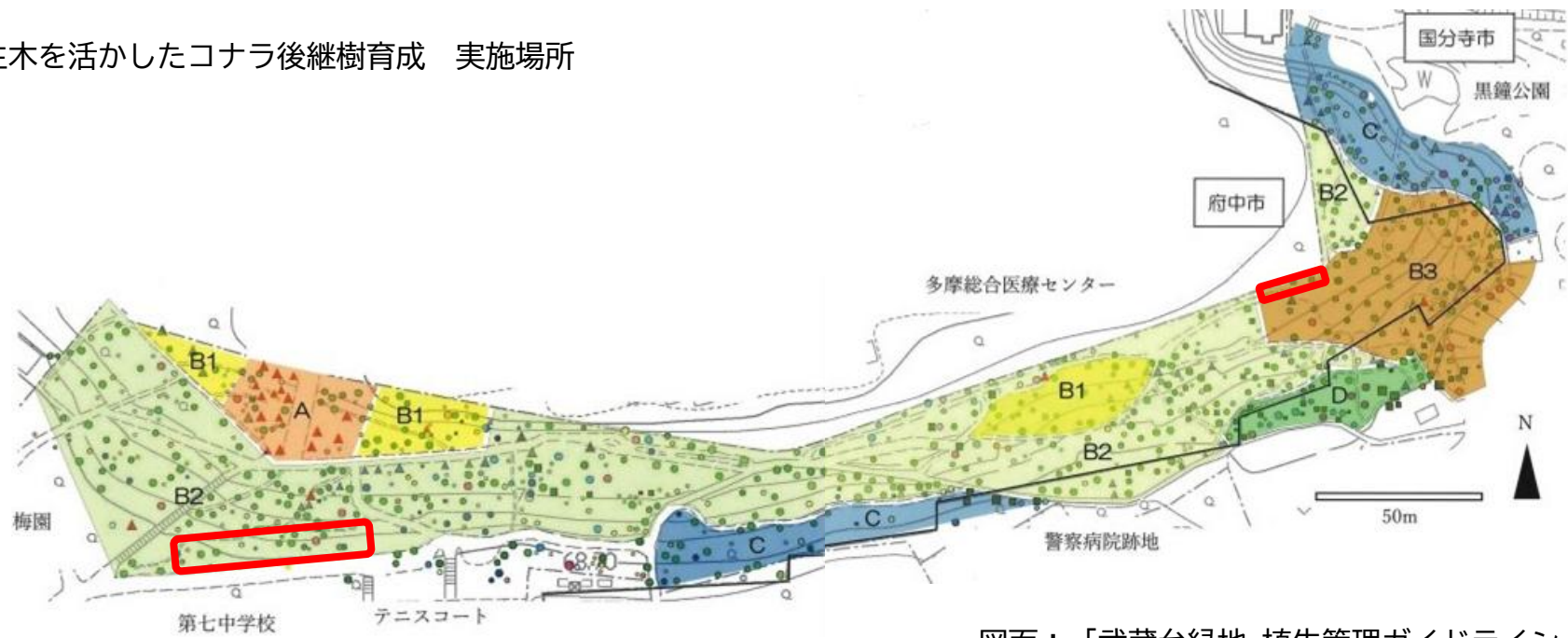
作業前



作業後

赤枠で囲われている部分では、コナラ以外の樹木は全て除去しました

実生木を活かしたコナラ後継樹育成 実施場所



図面：「武蔵台緑地 植生管理ガイドライン」より引用

⑤ つる植物侵入防止のための緩衝帯づくり （緑地北側境界の中低木間引き伐採）

隣地の林ではクズなどのつる植物が繁茂しており、樹木の枝を伝って武蔵台緑地に侵入してきています。緑地内の木に絡んだり、地面を這って新たに根をおろしたりと繁茂して生育エリアを拡大させています。クズは特に繁殖力が高く、草本や樹木までも覆いつくして枯らしてしまうことさえあります。これらを防ぐために境界沿いの中低木を伐採し、侵入の足掛かりとなるようなものがない緩衝帯となる空間を設けました。



作業前



作業後

フェンスを越え、滝が流れ落ちるように伸びているつる植物。クズなどは、地面を這ってさらにその先へ、と伸びていました。



作業前



作業後

フェンスの網目を抜けて枝を伸ばした常緑樹が繁茂していました

緩衝帯が確保されました



作業前



作業後

敷地内外の樹木の枝が触れ合い入り組んでいるのがわかります
そこを伝ってつる植物が樹林内に侵入していました

長年、フェンス際で成長したため幹がフェンスに食い込み
取れなくなってしまった樹木も複数ありました。

⑥ 植生調査および巡回

緑地内の植物の生育状況や生育場所を記録しています。
これらの情報は府中市やボランティア団体に共有するほか、名札の掲示などで緑地利用者にも共有しています。

「東京都レッドデータブック（本土部）2023」に掲載されている植物 …武蔵台緑地は、北多摩エリアに属します

カテゴリー（抜粋）
絶滅危惧ⅠB類 … EN
絶滅危惧Ⅱ類 … VU



ギンラン 4月 EN



ササバギンラン 4月 VU



キンラン 4月 VU



ホソバヒカゲスゲ 4月 VU



キツネノカミソリ 8月 VU



クサボケ 4月



サイハイラン 5月



マヤラン 7、9月
東京都レッドデータでは、リスト外
環境省カテゴリではVU（環境省レッドリスト2020）



フジカンゾウ 6月



ヒヨドリバナ 6月



シラヤマギク 7月



コウヤボウキ 8月



センニンソウ 8月



スズメウリ 9月



サワフタギ 10月



ツルグミ 11月



マユミ 11月



オオハナワラビ 1月

*植物名の次に記載した月は、撮影月を表しています。

⑦ ナラ枯れほか危険木対応

「ナラ枯れ」した樹木の伐採

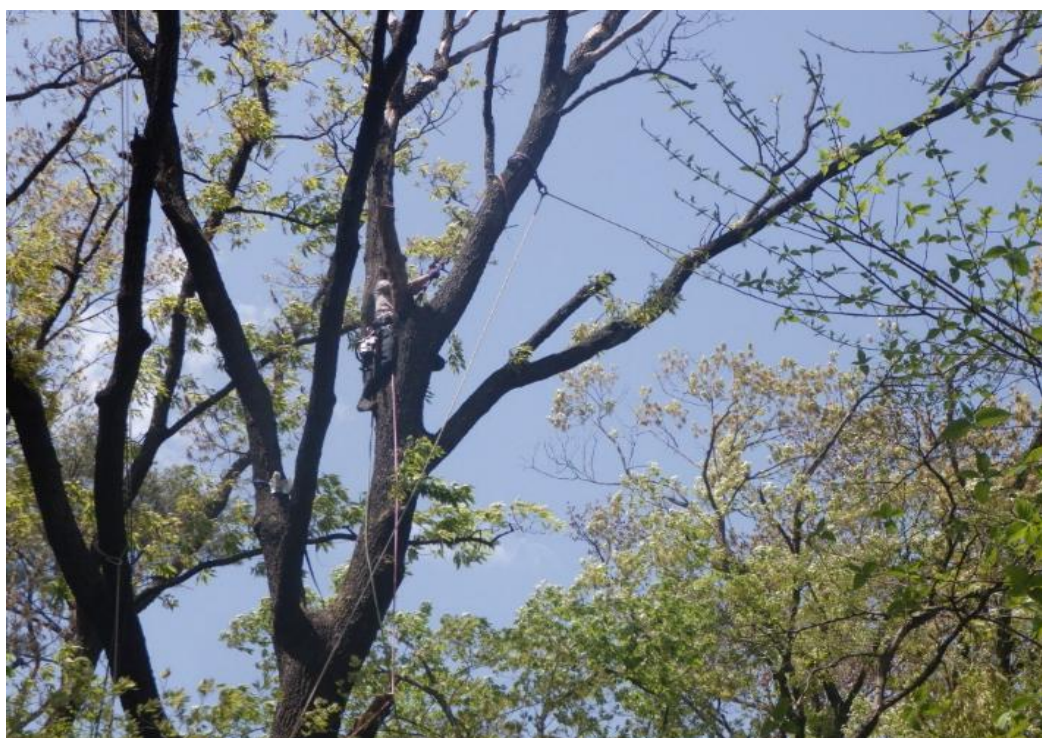
「ナラ枯れ」によりクヌギ・コナラの大径木を中心に枯損が拡大しています。
落枝や倒伏のおそれがあるため、緑地内の安全確保のため、伐採を実施しました。

*ナラ枯れとは…

菌（カビ）によって感染木が急激に枯死する病気のこと。

クヌギやコナラなどのナラ類の樹木が感染すると、梅雨明け直後から枯れ始めます。

多摩地域では令和2年頃から被害が拡大しており、武蔵台緑地でも大径木が枯れる被害が続いています。



危険木の伐採

株立ちのケヤキの幹同士が接触して食い込んでいました。

その部分からの腐朽で幹が折れてしまうおそれがあったため、緑地内の安全確保を目的としてこの危険木を伐採しました。

伐採した幹を観察すると、接触した部分は強風時にこすれ合って外樹皮が削れ、内部まで腐朽が進行していました。



幹同士が接触して食い込んでいる部分（赤破線の部分）
こすれ合っていたため、幹が平べったく変形しています



幹が食い込んでいた部分



幹同士がこすれ合って樹皮がなくなり、腐朽している部分



腐朽が進行し、空洞になってしまった部分

⑧ 保全作業やイベント等の市民・各種団体との協働

武蔵台緑地保全ボランティアとの協働
緑地整備活動と一緒に取り組みながら、手入れの内容や方法についての助言をしています。また、ボランティア団体主催のイベントにおいて自然観察ツアーの案内役を務め、武蔵台緑地の植生の特徴や手入れの方針について解説しました。



指標植物にかぶさるつる植物や落ち葉の除去をしました



イベント名「武蔵台緑地の魅力発見とボランティア活動」
幹に虫がたくさんいるクヌギ なぜ虫たちが集まるのかな

府中市環境調査員会議との協働 自然環境調査（植物班）
毎月1回開催される自然環境調査（植物班）に同行し、植物の種類・生育場所などについて調査をしています。
調査日以外に見つけた植物や鳥類、昆虫の生育場所や状況等については随時、情報提供しています
また、武蔵台緑地の特徴と生育する植物について学ぶ現地観察会に参加し、知識を深めました。



調査風景 大量の落葉に埋もれている草も多くあります



講習会 中央：講師の東京農工大学 吉川正人 准教授

緑地内でみかけた昆虫
府中市環境調査員の昆虫班や鳥班にも情報提供をしています。



⑨ 情報の提供・共有

武蔵台緑地は府中市内の樹林としては浅間山に次ぐ規模をもっており、これまでに行われた市民などによる調査では、約320種の植物と約290種もの昆虫が記録されており、生物多様性保全のうえでもきわめて重要な場所であるといえます。 *1
緑地で実施されてきた生物多様性に配慮した植生管理については、市のホームページに掲載され普及啓発がなされてきました。
さらに広く武蔵台緑地の魅力や管理方法を知ってもらうことを目的として、各所で普及啓発活動を実施しました。

また、手入れ時の発生材を活用した植物名杭を設置し、緑地利用者が生育する植物を知る機会を設けました。

普及啓発活動

- 8月 保全ボランティア主催のイベントで自然観察ツアーを開催（ ⑧ 保全作業やイベント等の市民・各種団体との協働 参照）
- 10月 むさし府中まちゼミにおいて緑地を歩きながら植生を学ぶ講座を実施
*むさし府中まちゼミとは、 商店・事業所などが講師となり、プロならではの専門知識を活かして少人数制のゼミナールを無料で開催することで、各店の存在や特徴を知ってもらう取り組み。今回は緑地の特徴を発信しました。
- 11月 環境まつり 公園緑地課ブースにおいて、武蔵台緑地で見られる植物や生物多様性保全を柱とした植生管理についてまとめられた掲出物の補足説明を実施
- 2月 職業講話 府中市立府中第七中学校第1学年を対象とした進路学習において、仕事の内容・やりがいの説明として、植生管理について解説



まちゼミ 参加者アンケート

- ・親子で地域の自然に触れて良かった
- ・在来の多様な植物を残して行くために手入れをしていることがわかって良かった
- ・いつも子供達と昆虫を見てばかりで草木をあまり見ていなかったなので、様々な種類の（植物の）説明が受けられて楽しかった。

市の中心部から離れていることなどから、初めて訪れたという方が大半でしたが、この講座をきっかけに足を運んでいただけて良かったと思います。
また、春の花が咲く時期に再び訪れたいとの声も多く聞こえ、武蔵台緑地への関心が高まったことを実感できました。

まちゼミ 市内では珍しい存在となったアカマツ林を観察



環境まつり 植生管理を紹介したブース展示



職業講話 植生管理方法について解説

発生材を活用した植物名杭を設置 緑地内を散歩する方に好評です。ツルグミの杭はシュロの葉柄を活用しました。



*1 「市民協働による生物多様性保全のための 武蔵台緑地植生管理ガイドライン」（府中市環境政策課、2020）より引用